

呼吸器内科

1. 2005 年度の評価

呼吸器内科は 2005 年 8 月より米国で呼吸器・集中治療を行っていた田中竜馬先生を迎えた。これにより当初も年度目標であった呼吸療法チームを専属の看護師と米国呼吸療法士を加えた専属チームを 2006 年 4 月から立ち上げることが出来たことは大変な進歩であったと考える。またアレルギー・膠原病科(本島・日高部長)・感染症(岩田部長)・集中治療センター(田中部長)と連携を取りながら日常業務に当たっている。呼吸器内科・アレルギー科は、膠原病・感染症とオーバーラップする部分が多いために現在のシステムが現実的である。そのため便宜上クリニック・病棟は分かれているが、カンファレンス・抄読会・回診などは共同で行い幅広い見地から診断・治療が行われている。また、教育にも多くの症例を経験することができるという merit もある。

呼吸器内科は 2006 年 3 月時点で医師 5 名で構成され、4 人は当院のスタッフで 1 人は昭和大学藤が丘病院呼吸器内科からのローテーションである。2006 年 4 月からは 2 人の医師が、6 月から 1 人の医師が呼吸器内科に入る予定である。現在、全国の大学病院の入局者が減少し、特に呼吸器内科医を志望する医師が少ないことを考えると非常に喜ばしいことである。

診療内容は主に肺癌の診断・治療、慢性呼吸不全の増悪管理・包括的呼吸リハビリテーション、喘息の慢性・急性管理、肺炎の治療などが中心となる。特に呼吸器疾患はタバコが原因となることが多いため喫煙問題を積極的に取り上げて近隣の小学校などの口演を含めて予防医学に力を注いでいる。病院全体としても 2001 年 9 月より院内の完全な禁煙を開始した。2006 年度からは禁煙指導が保健適応となることから敷地内禁煙に向けて努力しているところである。日本禁煙学会が禁煙専門医を 2006 年度から認定することになったが当院からは 2 人の専門医が認定される予定である。

クリニックは 1 年間で、実数値で 4,152 名を診察し、1 ヶ月平均 346 名であった。患者さまの内訳は COPD、気管支喘息、肺癌、陳旧性肺結核、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群など多岐にわたる。

入院患者の内訳は総数 664(実数では 527 名)名で肺がん患者が最も多く、ついで肺炎が多い。しかし、気管支喘息の入院患者は減少している。これは統計の取り方にもよるが外来での管理が良くなってきたための可能性もあると考える。

新規に肺癌と診断された患者数は 1 年間で 100 名以上であった。これは開業医や近医の先生方、市町村の検診などの協力により達成できた数値であり、感謝したい。また安房医師会の先生方と協力して"胸部レントゲンの読影会"を定期的で開催し、更に肺癌の早期発見に努力したいと考えている。第 43 回肺癌学会にも発表したが当院での 5 年間のまとめでは同地区の高齢化率が高く、そのため肺がんの平均年齢も 2000 年から 70 歳を超えている。治療は呼吸器外科・放射線科と協力しながら行っている。5 年間の治療成績であるが治療可能な非小細胞がんでは、stage b 期で 25 ヶ月、stage c 期では平均生存期間が 17.7 ヶ月、小細胞がん LD では 18.1 ヶ月、ED では 10.7 ヶ月と現在の標準と比較しても遜色のない結果であった。

慢性呼吸不全は当院での在宅酸素療法患者が 100 名を越えリハビリテーション・在宅医療部とカンファレンスを繰り返しながら患者管理を行っている。

また、睡眠時無呼吸症候群の患者の増加も目立っている。当院では外来にて簡易型の検査を行い、CPAP による治療の適応があれば入院としている。入院による PSG 検査も随時行っている。現在 100

名以上の患者が CPAP による治療を受けている。

今年の目標の一つとして 2006 年 4 月に発足した呼吸療法チームを充実させ、呼吸管理をスマートにし、今後は各科の壁を取り除き、呼吸管理体制を作り上げたいと考えている。

喘息発作による入院は近年減少し、今年度は喘息発作による人口呼吸管理症例もなく、発作による死亡は 0 であった。

また、看護婦支援外来と連絡をとりながら禁煙外来を併設している。禁煙指導に関してはパンフレットやカウンセリングとともにニコチンガム・ニコチンパッチなどを併用しながら禁煙指導を行い 40%以上の禁煙達成率を得ている。大国医師は近隣の小中学校に講演し、効果を挙げている。

気管支鏡検査は 2005 年度も 328 例と 300 名以上に施行しているが大きな合併症は生じていない。検査目的は異常陰影の確定診断目的がほとんどで血痰・喀血の診断・治療、レーザー照射、ステント治療も胸部外科と連絡をとりながら行っている。当院は気管支鏡認定施設に認定されている。

その他に当呼吸器内科は学会活動にも積極的に参加している。また、臨床治験の依頼も多く現在、喘息薬を中心に 3 つの治験を進行中である。COPD に対する世界で初めての mega-trial が進行中であるが当院が選ばれ進行中である(日本では 12 施設が選ばれている)。

2 . 2006 年度の目標及び方針

1)臨床ガイドラインの導入

現時点でも実際にはガイドラインに沿った診断・治療が行われているがそれを電子カルテ上にどの様に展開していくかが今後の課題と考える。

2)在院日数

呼吸器内科では在院日数を減少させるように努力する。

3)角膜移植

当院では積極的に角膜の提供をお願いしている。この値は剖検患者数を超えており皆様方のご協力に感謝したい。

4)レジデントプログラム

呼吸器内科では以前からレジデントプログラムを実践している。しかし、臨床が多忙を極めている状態で満足に指導できない状況でもある。今後は更に充実させるように努力したい。後期研修医には積極的に他科や他病院での研修を進めている。2006 年 7 月には国立がんセンターで 3 ヶ月間後期研修医が画像診断を中心に研修する予定である。

5)吸管理サポートチームの構築

前述したように呼吸管理を充実かつスムーズにするために特別なサポート体制を作ることを目標にする。

3 . スタッフの紹介

金子教宏(部長)：主治医権あり。1988 年昭和大学医学部を卒業。呼吸器内科一般を専門とする。特に集中治療や禁煙など。

日本呼吸管理学会評議委員、日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医、日本禁煙学会専門医、産業医、ICD、日本呼

吸管理学会評議委員。

大国義弘(医長)：禁煙や肺癌末期の管理など予防から終末期の管理までを得意分野としている。また、近隣の小学校や中学校などに喫煙予防の講演を積極的に行っている。日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医、産業医。

井上恵一：2006年度より呼吸器内科スタッフ。

日本内科学会認定医。

田辺裕子：2004年度から呼吸器内科後期研修医。

日本内科学会認定医。

土屋典子：昭和大学藤が丘病院呼吸器内科からの研修。長谷川景子：2006年度から呼吸器内科後期研修。

佐藤智恵子：2006年度より呼吸器内科後期研修医。

綾部悦里好：2006年6月より呼吸器内科後期研修医。

4. 教育内容

呼吸器内科としては

- ・火曜日の7:30からの初期研修医に対する呼吸器全般に関する lecture 火曜日の16:00からレントゲンカンファレンス(研修医に対するレントゲン読影勉強会)
- ・水曜日17:30からのカルテカンファレンス
- ・水曜日・木曜日午後に行われる気管支鏡検査の実際(時期によってはレジデントが気管支鏡検査を介助・実践することが可能である。)
- ・水曜日19:00より呼吸器内科医局会
- ・木曜日18:00より外来患者の診かた。症例検討会
- ・金曜日16:00より人工呼吸器回診

以上のようなスケジュールである。その他にリハビリや在宅とのカンファレンスや呼吸器外科・病理との合同カンファレンスを行っている。

当院では呼吸器関連の資格としては呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡認定施設、アレルギー学会認定施設であり、各専門医・認定医の取得が可能である。

5. 学術関係

1)原著論文

金子教宏、大国義弘、田辺裕子、矢野量三、長谷川景子、中下珠緒、本島新司：Progress in medicine：25巻4号 Page. 1032-1042 プライマリケア医が知っておくべき COPD の病態・診断と治療、COPD stage0 の治療・予防肺炎球菌ワクチン療法

中田ゆり、大和 浩、金子教宏：治療サービス業における受動喫煙 - 現状と今後の対策

2)学会発表

金子教宏、大国義弘、田辺裕子、矢野量三、長谷川景子、中下珠緒、日高雄二、本島新司：第17回日本アレルギー学会春季臨床大会 2005/6/2-4 岡山 HFA 製剤のポジショニング吸入ステロイドの新たな試み；吸入療法における EBM の観点から

大国義弘、田辺裕子、矢野量三、長谷川景子、中下珠緒、本島新司：第 45 回日本呼吸器学会総会
2005/4/14-16 千葉高齢者に対するワクチンについて(イブニングセミナー)臨床におけるインフル
エンザワクチンの有用性

田辺裕子、金子教宏、長谷川景子、深澤基児、黒木基夫、本島新司、武士明彦、庄司一虎：第 46 回
日本肺癌学会総会 2005/11/25-26 千葉 75 歳以上の高齢者肺癌(stage)に対する定位放射線治療の
有用性

窪田素子、金子教宏、大国義弘、田辺裕子、長谷川景子、中下珠緒、本島新司：第 166 回日本呼吸
器学会関東地方会 2005/9/10 びまん性陰影を呈した悪性リンパ腫の一例

土屋典子、金子教宏、大国義弘、長谷川景子、深澤基児、黒木基夫、武士明彦：第 116 回日本呼吸
器内視鏡学会関東支部会 2006/3/25 確定診断時の気管支鏡検査で偶然発見された気管支病変を合
併した肺癌の 2 症例

中田ゆり、大和 浩、金子教宏：第 64 回公衆衛生学会総会 2005/9/14-16 札幌タクシー車内におけ
る受動喫煙暴露 - タバコ粉塵濃度と運転手への身体的影響

中田ゆり、大和 浩、金子教宏：第 78 回日本産業衛生学会 2005/4/20-23 東京カラオケ店における
受動喫煙暴露 - タバコ粉じん濃度の調査

中田ゆり、大和 浩、金子教宏：第 15 回日本禁煙歯科医師連盟 2006/2/11 愛媛パチンコ店における利
用者・労働者の受動喫煙暴露

Uzawa Yoshihiro, Norihiro Kaneko, Kazumasa Tanaka, Miyagawa Tetsuo, Yuka Oshimi :
51thInternational Respiratory Congress 2005/12/3-6 USA . Benefits & Dissatisfaction of
Respiratory CarePractitioner CertificationSystemin Japan .

3)研究会報告

金子教宏：第 4 回 COPD 臨床医研究会 2005/7/9 名古屋 COPD と気管支喘息の関係

金子教宏、大国義弘、長谷川景子、田辺裕子、中下珠緒、本島新司：第 56 回臨床アレルギー研究会
2005/11/12 東京当院での喘息コントロールについて - GOAL study を参考にして -

4)講演

金子教宏：夷隅医師会 2006/3/24 慢性閉塞性肺疾患の急性増悪

金子教宏：安房医師会気管支喘息の最近の知見

金子教宏：千葉 COPD フォーラム チオトロピウム 1 周年記念講演 2006/2/23 千葉 COPD の増
悪の病態と治療

金子教宏：市川市民マナー条例啓発講演会 2006/3/28 市川グッバイたばこ

金子教宏：第 4 回呼吸療法セミナー 2005/7/31 仙台 肺機能検査とレントゲンのアセスメント

金子教宏：第 4 回千葉県喘息吸入療法研究会

亀田メディカルセンターでのトータルコントロールについて

5)著書(分担執筆)

金子教宏：メジカルビュー社 トータル呼吸ケア COPD

金子教宏：呼吸ケアネットワーク 第 4 回呼吸ケアセミナー

金子教宏：Ingelheim COPD@ER 来るべき「急性増悪」の季節に備えて

文責：金子教宏